

## 24年に一度の貴重なお祭り ～犬丸天満宮御開帳大祭～

犬丸天満宮（大字犬丸）で、330年あまり続く御開帳大祭が斎行されます。24年ごとの酉年に御開帳する大祭で、「御神体」「御客天神」のほか「天満宮縁起絵巻」などの社宝、中尾河内守安房ゆかりの先祖祭りに関する古文書など、天満宮ゆかりの宝物を一同に展示する予定です。

**期間** : 平成29年3月24日（金）～26日（日）

**場所** : 犬丸天満宮（中津市大字犬丸）

### ■内容

犬丸天満宮は、菅原道真公を祀る古社です。「中津市史」によれば、道真公は大宰権帥（だいつかさごんのそち）に貶められ、大宰府へ下向の途中、犬村江極岸（現在の犬丸・今津あたり）に着船、しばし休憩をとられたといわれます。天暦10年（956）、道真公の孫にあたる菅原文時が時の天皇の命により道真公ゆかりの地を探し求めていた際、当地を発見して天満宮を祀ったのがその創始とされています。



菅原道真像

江戸時代に入ってから、歴代中津藩主が信仰しました。小笠原家は社殿を造営するなど、厚く



天満宮縁起絵巻（部分）

信仰したといわれます。延宝8年（1680）に中津藩主小笠原長勝公が参詣した際に、「御客天神」と呼ばれる神像を寄進し、以来24年ごとの酉年に御開帳する大祭を営むことになっています。

また、当宮には隣接して、中世にこの地を治めた中尾氏の居城である、中尾城がありました。戦国期の当主である中尾河内守安房は宇都宮氏など豊前の有力武士たちとともに、黒田官兵衛に蜂起しましたが無念の戦死を遂げます。安房の霊は天満宮

内の祖霊社に祀られたほか、現在も付近に住む子孫たちの手により約300年もの間祀られ続けたことが、付近に残る古文書から判明しています。

当日は、「御神体」「御客天神」のほか「天満宮縁起絵巻」などの社宝、中尾河内守安房ゆかりの先祖祭りに関する古文書など、天満宮ゆかりの宝物を一同に展示する予定です。また、奉賛行事として、短歌・俳句・川柳コンテストも実施される予定です。

### ■問合せ先

犬丸天満宮・総代 中尾英治（TEL:0979-32-1230）

担当：地域活性化室（増田）

（TEL：0979-32-0017）

社会教育課文化財室（曾我）

（TEL：0979-22-1111・内線603）